

第4回匝瑳市市民協働のまちづくり委員会 会議結果概要

- 開催日時 平成27年10月13日(火) 午後2時から午後4時30分まで
- 場 所 匝瑳市役所議会棟第2委員会室
- 出席委員 関谷委員長、椎名(嘉)副委員長、林委員、大木委員、萩原委員、伊藤委員、松田委員、石田委員、勝又委員、加瀬委員、椎名(勤)委員、岩井委員(12名)(欠席:那須委員)
- 市出席者 (事務局/企画課) 太田課長、大木主幹、増形主査、小林主査補

発言者	内 容
	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ ※委員長あいさつ</p> <p>3. 議 事 (1) 匝瑳市市民協働指針に盛り込むべき柱(ポイント)について ※事務局から資料1・2に基づき説明</p> <p>《各委員からの質問・意見》</p>
委 員	・協働という言葉の意味について、委員各自が違った意味でとらえて話をしてきたが、このあたりで固めていきたいのだが。
委員長	・それを今日固めていこうとしている。これまで皆さんがイメージしてきているものを確認しながら集約していきたいと考えている。
委 員	・項目についてはこれでいいのではないかと思っている。
委 員	・順番について、協働についての説明や、なぜ協働が必要なのかについてはじめに持ってきたほうがよいのではないかと。
委 員	・私も賛成である。市民もほとんど協働について知らない。
委 員	・PDCAとはどういったことか。
事務局	・計画して実行して、よくなかったら計画を見直して、というサイクルを回していくことである。
委 員	・この指針はどのくらいのスパンで考えているのか。時代の要請で変えざるを得ないこともあるのではないかと。
委員長	・指針は方向性を示すものであり、指針に基づいて具体的な計画を立てるところが多い。匝瑳市としてそのあたりはどう考えているか。
事務局	・指針をもとに条例を制定する予定である。
委員長	・そのあとどうするかはまだ固まっていなくてもいいかもしれないが、包括的な推進計画を立てる形も考えられる。

委員 事務局 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・指針ができて条例ができた後は、市民への周知はするのか。 ・指針ができたなら概要版を作成し、全世帯に配布する予定である。 ・市民にいかにして理解してもらうかは非常に重要である。色々なやり方で浸透させていくことは可能である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村の指針の市町村名だけ匝瑳市に変えたものではない。他の指針をみると、ほぼ同じような内容である。建前だけではおもしろくない。いかに市民が自分ごととして捉えて協働を考えていくことができるか。匝瑳市の独自性とは何かを考えたほうがいい。より具体的にこれをやる、あるいはやりたいから市民の方御理解ください、ということに記載したらどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義について、範囲や領域、基本原則など区別しなくてもいいのではないか。もっと易しく分かりやすくしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・構成については、まず必要性から入って興味を引くようにしたほうがいい。家庭には子どもや高齢者、主婦などがいる。それぞれの立場で指針が自分に向けられていると思わせる工夫があったらいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・指針だけで匝瑳市の個性を出すのは難しい。今後、例えば高齢者支援に当たって、匝瑳市ならではの支援に導いていけるような指針であればいい。協働の定義については、御指摘のとおり細かく分かれていて分かりづらい。一般にはこのような形になっているところが多いが、そうする必要はない。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・協働がわかっていないのに「協働推進の背景」から入ったらおかしい。 ・ここには「協働推進の背景」となっているからそのような意見になるが、例えばここが「匝瑳市が置かれている状況・背景」となっていればいいのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「匝瑳市の特性」はどのように位置づけるか。例えば「匝瑳市の置かれた状況」の一つとして捉えるか、それとも「協働の推進」に当たっての特性として位置づけたほうがいいのか。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し中身の議論をした上で整理してはどうか。 ・暫定的に「匝瑳市の置かれた状況と特性」にまとめ、続いて「協働とは」といった順序立ててまとめさせていただく。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地方分権というのは、具体的にどのような影響があるのか。 ・これまでは国家主導でやってきた。国でやるというのは47都道府県全ての自治体で横並びになる。しかしながら各自治体が置かれた状況はそれぞれ違っており、国のやり方にそぐわない自治体も出てくる。地方分権は、自治体が置かれた状況に即してそれぞれの自治体が権限を持ってまちづくりを進めていく、という状況になっているということ。
委員 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここが市民の方に理解いただかないと進まない。 ・人口減少の数値のみを記載してもピンと来ない。そのことによりどのような影響が出てくるのかをある程度具体的に記載しないと伝わらない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・強みには人間関係の繋がりが強いとあるが、弱みには行政任せや当事者意識

委員長	<p>が希薄、とある。どのような形で記載されていくのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強みの部分を協働で活かし、希薄の部分は意識的に変えて協力関係を紡いでいこうという形になるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の目的として、市民と一緒にやることによって行政が抱えている負担を減らしていこうという本音がある程度出してもいいのでは。行政は壁をつくりすぎ。言いたいをオブラートに包んでも何も伝わらない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には大賛成。できなくて困っているから助けて、と言ってしまうのも手である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も同じ考え方を持っているが、行政は大枠をとらえている。個々の案件と大枠のバランスをどう取るかが難しい。もう一つ、市民は隣町でやっていることをどうしてできないんだ、と比べたがる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・隣町ではやっていないものを匝瑳市がやっていることもある。そのあたりも含めて考えられれば。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政は全体を考えていかなければならないが、市民や地域は全体を踏まえなくてもよく、目の前に困っている人がいればその人を助けるといった個別具体的なことができるのが市民や地域の強みである。これまで公と私がかっちり分けられていた。この境界線は、最近流動的になってきている。役割分担を決めていくことは難しいが、協働において大変重要なことである。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・背景の部分で、行政の業務を減らしていくのは財政問題そのものであり、協働という形で事業の数を減らしていこうとしている自治体はある。そのほうが低コストできめ細かくできるのであればそのほうがいいという考え方である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行政でやっていたことを民間に委ねるアウトソーシングということも実施している。事業数を減らすのに全て市民にお願いするものではない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と一緒にやっていくことと民間に委ねることは共通する部分もあれば、違う部分もあり、書き方は難しい。武雄市で図書館をツタヤに委ねたが、賛否両論ある。効率よくサービスを提供する一方で、蔵書に偏りが出るといった批判も出てきている。このあたりをどう考えるかは協働を考えるに当たっての重要なポイントでもある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識の変化は丁寧にアンケートを取っていただいているので、それらの傾向を背景の説明にできるのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このような背景があるから皆さんの力が必要です、といったPRがあってもいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この指針の主語は「私たち」である。「私たち」は市民であり行政でもある。議員も含め。そのイメージを持って考えるべき。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・背景はこのあたりでいいか。匝瑳市の特性についてはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・弱みの部分で、一般の家庭でも後継者がいなくなって空き家になってしまうということを入れておいてほしい。

委員	・強みの部分で、自然環境や歴史文化、産業など、果たしてみなさんが強みだと感じ取ってくれるか。市民の地域活動についてはこのとおりにやっている。
委員長	・海や自然、植木など1次資源は豊富にあり、強みであるが、そこに価値付けや育成をしていかないと、本当の意味での強みにつながらず、場合によっては弱みとなってしまふ。6次産業も色々な人の手が入っている。自然も観光に活用していこうとするならば観光と繋げるような取組が必要である。
委員長	・人の繋がりも自然などの1次資源も、単に強み、弱みとして振り分けるのではなく、いずれも強み、弱み両方の側面を持っているということを強調したほうがより匝瑳市の実態を表すのではないか。
委員	・弱みに市民意識の項目があるが、ここをどう向上していくかが求められる。行政に任せきりの市民とあるが、そのうち何割かは、自分たちは当てにしていけない、ということかと思う。そういう人たちをどのようにして呼び込めるか。そこが肝心である。
委員長	・そのあたりを協働の考え方なり進め方において、何らかの形で表現していきたい。
委員	・全てを特性で表現できるかどうかは分からないが、うまく繋ぎ合わせて表現できればいい。
委員長	・そのあたりはたたき台が出てきた段階でまた検討いただきたい。この後は、定義の部分の議論を深めていきたい。
委員	・「協働」という言葉は行政の中では普通の言葉となっているようだ。私たちは本当に分からなかった。調べてみて自分なりにこう解釈した。行政と市民、NPO、企業などが対等なパートナーとして協力し、地域の諸課題を解決していくこと。ここでは必ず行政が絡むというのが自分の考え方である。あと、市民とNPO、企業が行政と対等でその地域の課題を解決するという。これまでは行政が担ってきたがそれでは効率が悪い。このように考えた。
委員長	・いただいた御意見は、自治体や行政の現場では比較的共有されている定義付けかと思う。協働という言葉も含めて学術的には詰められていないところもあり、分野によって理解の仕方も全然違うので、正確な定義づけはできないが、現場レベルでの定義づけとしては、行政と市民、NPO、企業が対等に連携協力して課題解決に当たる、というイメージかと思う。これにある程度肉付けして個性を出そうとしているところも多い。これにはいろいろ議論があつて、そもそも対等ではないという意見がある。「対等」という言葉を使い始めたのは行政側であり、求められるニーズに対して、皆さんも一定の責任を持ってやってくださいね、という文脈で使われてきた。個人的には「対等」という言葉を使わないほうがいいと思っている。行政と多様な主体が連携協力しながら地域の課題解決に当たっていく、というのがオーソドックスな共通項としてある。一文にすることもあるし、列挙することもある。
委員	・協働の理想としては、市民をその気にさせることである。市民の意識の醸成

	<p>をどうやって作るか。匝瑳市には色々な団体があり、それらは即市民に繋がっている。こうした団体の意見をきめ細かく汲み上げていかないと、なかなか協働意識は芽生えないのではないか。自分ごととして自分たちの手で匝瑳市を良くしていくんだということが必要。スローガンやキャッチフレーズを作るのも大事である。間違っはいけないのは、行政が大変だからあなたたちやっってくださいではない。一緒にやりましょう、ということはどうやって作っていくか。色々な手法を考えていかなければならない。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこととして考えていく主体の裾野を広げていくことが大事というのがポイントになるという御意見である。流山市では、公と私の境界線が曖昧になる中で、しっかりとした話し合いなしには協働は進められない、との考えから、定義の中に「しっかりと話し合いをする」ということを強調して入れようという議論があり、盛り込まれている。香取市は農村部的な意味合いを出していくことを個性として出している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働というのは、行政と市民だけではなく、市民同士も含まれるのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・私はそういう風に理解している。私の整理の仕方では、市民と市民、市民と行政、市民と議会、全て入る。どこどこというふうに明確化するよりも、「多様な主体」とするのがいいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章にもある「匝瑳市の発展と市民の幸せのために、それぞれの立場で参加し、協力して問題を解決していく」ことと理解している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関連して、協働は市民憲章の実現を目指すものであると思う。人口減少で市民憲章が目指しているものが損なわれる恐れがあるので、協働をやっいてこうではないか、ということではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章は市民の皆様がまちづくりの目標とするものであり、市民憲章が大元にある。市民協働指針の策定に当たっては、市民憲章だけではだめなのか、といった意見もあった。ただ、市民憲章は考え方のみを項目立ててあるだけなので、市民協働の在り方については別に指針として持っていたほうがいだろうということであった。一点だけ、変な提案をしたい。匝瑳市独自のキャッチフレーズを考えてみた。匝瑳市の頭文字をとり、「そ 総参加で」、「う 動かす協働と」、「さ 支え合いのまちづくり」というのを考えてみた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「総参加」というのをいれたほうがいかどうかは考えどころ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成である。色々なきっかけを用意しておいたほうがいい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一点だけ気になる点があり、「総参加」は「総動員」として捉えられる可能性がある。イメージ的にはみんな協力してやっいてこうという意味合いであることは分かるが、違う文脈で理解されてしまうという問題もあり、どう表現するかは悩ましいところ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・協働というのは何パーセントくらいの参加で成功というのか。ほんとは100パーセントがいいのだろうが。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にみんなやっいていく方がいいが、「自分はやりたくない」という

委員	<p>ことも言える地域でないといけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いをするというのは基本だと思う。その場をどういう風につくっていくのかがポイントとなる。そこが知恵の出どころ。私個人的にはサークルのリーダーの人達に色々な意見を聞いてみる。あまり人数が多すぎても議論にならないのではないか。野栄総合支所に推進の拠点を作るなど協働の拠点を作ったらどうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 協働は下手すると行政の都合で使われてしまう。そうではなく、両者がしっかりと話し合いをしながら一定の合意を経て協力関係を紡いでいく。そこを明確にするために話し合いや腹を割ったやりとりを加えるというのは非常に大事。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを促進する方法が企業等で実践されている。そういう方法を学んで進めるべき。オープンな形で話し合いができるような形を徹底してやる。そういう技能を身に付けた人を匝瑳市で育てていけば色々な本音を引き出せるのではないかと。まずは匝瑳市の職員が習熟していくべき。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーションの方法も色々ある。企業のように合理的に進めていくものもあれば、地域なりの合意形成の仕方もある。どのように合意形成していくのかは大事なポイントである。そこをどう描くか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> いままでの合意形成のやり方に支障が出てきていると思う。ファシリテーションの手法を使ったほうが合意形成し易いのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 立場が違って地域住民が気軽に参加できる活動、若者が住みやすいまち、行政と一体となつて弱者に優しいまち。震災前はサーフィンのまちにしようとしていた。東京オリンピックでサーフィンが種目となって誘致に動き出している町もある。自然を有効に活用したまちづくりを考えるに当たって若者の意見も貴重。空き家の活用など考え方も広がる。
委員	<p>(休憩)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員意識調査の結果の中に、未来の指針を示すのは行政の役割という意見もあるが、軌道に乗るまではどこかがリーダーシップをとらないといけない。行政がやるのか、協働の協議会がやるのか分からないが、どこかが中心になってやるべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市の方針として協働のまちづくりが掲げられているが、これはどの程度のものなのか。行政が本気にならないと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市長のマニフェストには市民参加のまちづくりがあり、これは市民協働を言っている。総合計画後期基本計画でも重要であると位置づけられている。予算については、これから事業をどう展開していくかによって変わってくる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 指針の中に行政としての本気度を出すことはありだと思う。本気でない自治体は、抽象度が高いものしか示さなかったり、行政の取組を明確にうたっていないか。市民に問題提起し、色々聞いていくことも本気度の示し方だと思う。協働は色々な政策分野の一つではなく、様々な分野を横串

	<p>のように繋がっている。それぞれ該当する分野で連携の裾野を開いていくことをうたうこともありだと思ふ。</p>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の取組の一つに提案制度がある。よくあるのが市民からの提案であるが、行政からの提案が弱い。このあたりにも本気度が現れる。あるいは、行政は色々な動きを作り出していくきっかけやリーダーシップ、ファシリテーションに力を入れていくことを指針に盛り込むだけでもだいぶ違う。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政で協働を推進する部署は企画課になるのか。 ・指針策定は企画課で進めているが、市民活動については環境生活課が所管している。個人的には、具体的に推進する部署としてはそちらになるのではないかと考えている。決まったわけではない。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市役所との関係を考えたときに、専門部署をつくったほうがいいのか、それとも各部署が自分のところで考えて実践するような体制が望ましいのか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部署とすれば環境生活課になるのだろうが、それぞれの課に関わる部分がかかなりあり、それぞれの課が協働に対する意識を持ち、進めていかないと絵に描いた餅になりかねない。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体でも企画課が指針を作り、専門部署が作られる流れまでは同じであるが、それで上手くいっている自治体とそうでない自治体がある。上手くいっている自治体は、専門部署が担当課と市民との媒介役に徹しているが、上手くいっていない自治体は、役所内で専門部署が浮いてしまっている。専門部署に力がないと、協働の話が市民から出ても、担当課から「負担が増えるからうちに持ってこないでくれ」と言われてしまう。推進部署を作るのであれば、部署間を横断して繋ぐ位置づけ、あるいは人材配置をしないと難しい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見の中にも、まだ自分たちも勉強不足なので研修をしたいということがあった。どこの課も研修を受け、それなりの意識を持って取り組むべきである。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市職員の距離もまだまだ遠い。香取市はそのあたりを意識し、職員が地域に入っていくことを明確にうたっている。小学校区を単位とした協議会づくりを進め、そこで区や自治会、社協やNPOが横に繋がり、力を合わせて地域づくりを進めており、そこに職員が地域担当職員として入っている。市民はこのことについて職員が近づいて来てくれている、と感じている。職員研修というと一般には座学であるが、現場を知り、体験することが学びの場ともなっている。
<p>委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それはいい。指針に入れられないか。 ・今でも小学校区単位で地域振興協議会があり、ここに事務局として市の職員が入っている。また、自主防災会という組織があり、地区支部にも市職員が入っているが、協働というところまでは行っていない。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに地域で色々な組織があるが、役員が一年交代で変わっており、継続性がない。人材を確保するのはどの組織も大変である。行政としても新しい組織を作るのではなく、横の連携を強化すべき。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員意識調査の結果に補助金のことが書いてあるが、補助金を出すことを想定しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく地域振興協議会など色々な団体に補助金を出している中で、一律に交付するのではなく、やっているところにはインセンティブのようにプラスするということを言っているのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部でよくあるのが、これまで目的別に一律で出してきた補助金を集約して地区ごとに一括して交付し、その使い方はその地域に任せる、というやり方を取り入れている。いいかどうかは別として。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会は作るべき。役所に専門部署を作るのは現実的には難しいのでは。地域団体もたくさんあるが、行政に丸投げの団体と行政がほとんど関知していない団体があり、かなり濃淡がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民からの提案や行政からの提案を受け入れる場所が必要ではないか。市役所の中に新しい部署をつくる必要はない。先ほど委員長がおっしゃったように力のない部署が担当すると協働が進まないということもあるので、ぜひ企画課が旗振り役をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興協議会や自主防災会が小学校区単位で出来ており、市役所の職員が入っているが、開催時に参加するだけである。市民と一緒にやるんだという気概は感じられない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も一市民の立場として参加している側面もある。御理解いただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地区単位で媒介的な役割をする組織も必要とされている。既存組織をリニューアルしてもいいし、別組織を立ち上げてもいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・指針の中に取組の例をなるべく入れてほしい。そのほうが理解しやすい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで協働のような形でやってきた事業は、これからは「協働」という冠をつけるとだいぶ違う。「協働」という文字が入るだけでやっている人の意識や気持ちが違う。きわめて大事なことである。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここだけの議論に留まらず、全市的に活発な議論に繋げていけるか。そのいざないとして、大きな契機としての指針にできればと思う。 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の日程について報告。 <p>4. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>